

施策No.8 観光・交流の振興

施策の目的

対象	意図
①市内外住民 ②観光や交流に係わる事業者や農家	①伊佐の良さを知り、繰り返し来てもらう ②収益性のある観光体制が整う

現状

平成26年度に本市を訪れた観光客数609,263人のうち、日帰り客数は575,212人、宿泊客数は34,051人で、平成21年度と比較すると、観光客数は44,245人減少しています。観光客数は年々減少していますが、この要因として、交通手段が自家用車やレンタカーに限られ、アクセス面で他の観光地に比べ不利であることが考えられます。

日帰り客数は、曾木の滝公園やパークゴルフ場等を訪れた人が469,012人、もみじ祭りなどイベントを訪れた人が106,200人で、平成21年度と比較して48,033人減少しています。イベントでの入込客数は増加していますが、観光地点全体での減少率が大きくなっています。平成24年からは観光ボランティアガイド「伊佐の風」による観光ガイドが行われており、近年では年間約2,000人の観光客にガイドが行われています。

宿泊客数のうち約70%がホテルや旅館、民宿等の宿泊者、残りの約10%は市内2箇所のキャンプ場宿泊者で、平成21年度と比較すると3,788人増加しています。この主な理由は、調査対象施設が増加したことや、工事関係者等の連泊宿泊者数が増加したことによるものだと考えられます。

本市を訪れる観光客は、日帰り型の観光客が94.4%、宿泊型の観光客が5.6%であり、四季を通じて開催されるイベントへの来場者は多いものの、宿泊には結びついていません。また、市内のホテルや旅館など宿泊施設の収容可能な人数は、1日当たり400人程度となっています。

ツーリズム※に関しては、平成22年に「伊佐ツーリズム協議会」が発足し、平成26年度においては521人を受け入れています。教育旅行の一環として、民泊での受入れが多いため、受入れ家庭の登録が急務となっています。

また、市では、移住体験住宅を設置し、移住を検討している人への生活体験の場を提供しています。平成22年の体験住宅設置以降、624人の利用があり、38人がその後、本市へ移住しています。

今後の状況変化

- ・ 市内宿泊施設の老朽化が進んでおり、今後、耐震性等の安全面についても整備が必要になると予想されます。
- ・ 宿泊施設の後継者やサービスの確保が難しくなることが予想されます。
- ・ 観光客の志向が、団体旅行から小グループ化、個人旅行へ移行しており、また、観光形態については、体験型の観光へより一層移行していくと予想されます。

課題

- ・ 観光資源の掘り起しや有効活用を図る必要があります。
- ・ 近隣自治体と連携して、観光客の誘致に取り組む必要があります。
- ・ 曾木水力発電所を活用した環境学習など、地域資源を活用したツーリズムを推進する必要があります。
- ・ UIターンや市外から移住した市民、来訪者、観光客の感想や意見を活用し、ニーズにあった観光メニューを企画する必要があります。
- ・ 観光ボランティアガイドの効果的な活用について検討する必要があります。

～施策の方針～

豊かな自然を活かした観光資源の開発と整備を引き続き行うとともに、近隣自治体との連携を強化しつつ、九州新幹線全線開通に対応した観光体制の整備を行い、積極的なPR活動を展開していきます。また、風土・文化やさまざまな地域資源を活用したツーリズムについて、民間と行政の協働により推進します。

目的の達成度をあらわす指標とその目標値

成果指標	平成21年度実績値	平成26年度現状値	平成32年度目標値 ()は成り行き値
	平成27年度目標値		
A 観光客数（宿泊+日帰り）	653,508人 683,000人	609,263人	700,000人 (660,000人)
B ツーリズム観光客数	0人 120人	521人	850人 (521人)

目標設定の考え方

- A：観光客数（宿泊+日帰り）は、イベントの開催状況や過去の実績から、平成32年における成り行き値は、平成26年度水準で推移すると予想し、66万人を見込みます。目標値は、地域の観光資源の有効活用を図り、魅力ある観光地づくりなどに取り組むことで70万人をめざします。
- B：ツーリズム観光客数は、前期基本計画で定めた目標値を大幅に上回る成果を上げており、今後この水準を維持すると予想し、平成32年度における成り行き値は、521人を見込みます。目標値は、伊佐ツーリズム協議会と連携し、受入体制のさらなる整備を進め、ツーリズム受入団体数の目標を40団体と設定し、850人をめざします。

目標達成に向けた基本的な取組み

- ・ 新たな観光資源の掘り起こしを行います。
- ・ 曾木の滝などの既存観光資源の整備や観光案内板の設置を進めます。
- ・ 地域の観光資源を有効活用するため、近隣自治体も含めた観光資源を相互に連携させることで観光客の誘致を図ります。また、曾木の滝周辺には大鶴湖や鶴田ダム、新曾木大橋、曾木の滝分水路等の観光資源が集中しているため、県や県観光連盟、さつま町、鶴田ダム管理所等と連携し、それらをゾーン化した魅力ある観光地づくりをめざします。
- ・ UIターンや市外から移住した市民、来訪した観光客の感想や意見を把握・分析し、観光戦略に活用します。
- ・ 観光特産協会や関係団体が主体的に行うイベント開催に対する支援を行います。
- ・ 観光掲示板の設置や、インターネットやパンフレット等の活用による効果的な情報提供、ふるさと大使によるPR活動など、積極的な宣伝活動を展開していきます。
- ・ 本市の地域資源を活かした農業体験やスポーツ合宿、環境学習など魅力あるツーリズムメニューを企画し、受入体制の整備を行います。

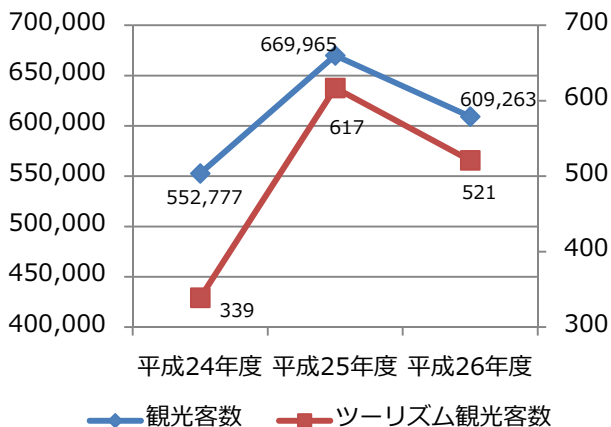
協働による市民と行政の役割分担

市民（住民、事業所、地域、団体等）の役割	行政の役割
<ul style="list-style-type: none"> 市民は、自ら地域を知り、来訪者に温かく接し、地域の良さをアピールします。 観光業者は、集客力を高めるための情報発信を行い、来訪者のニーズを的確に捉え、来訪者が再度訪れたいと思えるようなサービスを提供します。 観光特産協会は、自ら事業計画や情報発信を行うなど、主体的に観光事業に取り組みます。また、市内の飲食店・宿泊事業者の資質向上を図ります。 ツーリズム団体は、来訪者に対し地域の良さをアピールし、持続的な活動に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体等と連携し、観光客を誘致するためのPR活動を行います。また、特産品等の宣伝販売を支援します。 観光施設等の整備や観光資源の掘り起こしを行います。 ツーリズムについては、受入体制の整備や情報発信を行い、持続的な活動に向け支援します。 観光イベント開催に対する支援を行います。

まちづくりの横断的課題 ～安全安心・定住の推進～との連携

定住の推進を図るためには、ツーリズムによる交流人口や本市を訪れる観光宿泊客数が増加することが重要です。このための取組みとして、既存観光資源を有効活用した魅力ある観光地づくりや地域資源を活かした体験型観光・ツーリズムの企画が重点となります。

【観光客数（宿泊・日帰り）とツーリズム観光客数】



忠元公園

資料：伊佐市伊佐PR課



伊佐市ガイドブック

ツーリズム：風土や文化、様々な地域資源を活用した個々のニーズを満たす体験・交流型観光のこと。